

卒業研究Ⅱ

科目ナンバリング THE-402
必修 4単位

中澤 雄飛

1. 授業の概要(ねらい)

本演習では、体育・スポーツを主たる対象とし、人文科学の観点から諸問題にアプローチしていきます。特に、体育・スポーツ哲学の研究方法に則り、体育・スポーツ実践の問題と向き合っていきます。体育・スポーツ実践の場で起こる多様な問題に着目すると共に、それらを論理的に考察する方法を説明していきます。なお、本授業は履修者のプレゼンテーションを基にしつつも、主としてディスカッション形式で展開します。

2. 授業の到達目標

- ・体育・スポーツの諸事象に対して、自ら問いを立てることができる(ディプロマポリシーの「1」に該当)。
- ・学術的な方法に基づき、自らの考えを発表・執筆することができる(ディプロマポリシーの「1」に該当)。
- ・体育・スポーツ哲学の研究方法に則り、他者と議論することができる(ディプロマポリシーの「2」に該当)。

3. 成績評価の方法および基準

- ・授業への取り組み(発表、調査、議論への参加等)(40%)。
 - ・期末レポート(主に研究方法の妥当性、問題設定の客観性、考察の論理性を評価)(60%)。
- ※授業回数の3分の2以上の出席者を評価の対象とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

使用しません。適宜、資料を配布します。

参考文献

高橋徹編 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』 みらい
友添秀則・岡出美則編著 『教養としての体育原理:現代の体育・スポーツを考えるために』 大修館書店
久保正秋 『体育・スポーツの哲学的見方』 東海大学出版会
大橋道雄・服部豊示・阿部悟郎 『体育哲学原論:体育・スポーツの理解に向けて』 不昧堂出版
全国教育系大学剣道連盟編 『教育剣道の科学』 大修館書店
その他、適宜授業内で紹介します。

5. 準備学修の内容

- ・研究発表に際しては、自らの研究テーマに沿った資料を発表日までに作成して下さい。
- ・期末レポートの作成に際しては、論理構成のメモを作成し、執筆前に必ず提出して下さい。
- ・時事問題に関心を持ち、自らの研究テーマと関連付けて思索し、気付いた点を記録しておくことを推奨します。

6. その他履修上の注意事項

- ・本授業は、「教育学演習Ⅰ」の発展科目として位置付けられています。
- ・次世代のスポーツ文化を担う人材として、自覚と責任、情熱を持って、真摯に学修して下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等についての説明)(講義、ディスカッション)
- 【第2回】 体育・スポーツを哲学することの必要性(講義、ディスカッション)
- 【第3回】 体育・スポーツ実践への着目と哲学・思想的検討(講義、ディスカッション)
- 【第4回】 体育・スポーツの現在の課題と学問領域(講義、ディスカッション)
- 【第5回】 人間の身体に関わる現在の課題と学問領域(講義、ディスカッション)
- 【第6回】 研究発表からの検討①—問題提起に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第7回】 研究発表からの検討②—研究方法の妥当性に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第8回】 研究発表からの検討③—論理構成に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第9回】 研究発表からの検討④—スポーツの国際的な動向に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
※スポーツの国際的な運営に関わるゲストスピーカーを招いてのディスカッション
- 【第10回】 研究発表からの検討⑤—体育・スポーツ実践の現場に着目して—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
※体育・スポーツ実践に関わるゲストスピーカーを招いてのディスカッション
- 【第11回】 研究発表からの検討⑥—これからの体育・スポーツを見据えて—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第12回】 期末レポートの作成①—問題設定の妥当性に関する検討—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第13回】 期末レポートの作成②—研究の目的と意義に関する検討—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第14回】 期末レポートの作成③—論理の整合性、エビデンスに関する検討—(講義、プレゼンテーション、ディスカッション)
- 【第15回】 期末レポートの修正と振り返り、授業のまとめ(講義、ディスカッション)

※ゲストスピーカーの招聘については、講師のスケジュールの都合により、変更となる場合があります。